

手をつなごう2007

平成20年2月4日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 30

いよいよ最終回

昼から雪のちらつくあいにくのお天気となった中、最後のコーディネーター研修に大勢の方がご参加くださいました。

今回は岡山大学教育学部の大竹喜久准教授に「絵カードを使ったコミュニケーション」と題して次の3つの柱で、実際の指導場面のビデオも織り交ぜながら、お話いただきました。

- コミュニケーション行動をどう捉えるのか
- 絵カードを使う場合の諸問題
- 事例より一絵カード指導の向かう先

コーディネーター講座



保育園

以前から関心をもっていた。ほとんどが初めて聞くような事ばかりだったが、初心者でもとても分かりやすく話をしてくださったのでどの項目も勉強になった。実践のビデオもあり、どのように絵カードを使っているのか分かりやすかった。

幼稚園

絵カードに限らず、コミュニケーション行動のとらえ方など具体的に聞いたことがよかった。

小学校

今まで絵カードの使い方がよく分からなかったが、具体的なビデオなどで分かりやすかった。カードは手作りなのか、すぐ使えるものはあるのかなど、教えて欲しいと思った。

特別支援学校

絵カードを用いるときに「行動によって起こる結果が本人にとって有意味」という視点は当たり前のことだがとても大切だと思った。特にコミュニケーション指導の導入段階では「自分の欲しい物が得られる」「自分のしたいことができる」ことが子どもの自発的な行動を促す大事な視点であると感じた。

幼児通園施設

日頃コミュニケーション指導を行う上で思い悩むことが多いが、初心に立ち返り整理することができた。特に後半の伝達の失敗に対応できていくような取り組みの事例、状況や問題行動に応じて指さしや手渡しの方法を変えろといった大人側の分析的な姿勢がとても参考になった。

アンケートより

今年度のコーディネーター講座は、「特別支援教育に関わりのある方ならどなたでも」ということで、時間もできるだけ参加しやすい時間帯（15：15～）に設定しました。おかげさまで好評をいただき、毎回70名～100名、延べ421名の方にご参加いただきました。

講師の先生方は、本当にお忙しい中、資料やスライドをご用意くださり、具体的に分かりやすいお話をしてくださりました。心より感謝しております。

また、ご参加くださった皆さんも、大変熱心に受講してくださり、「特別支援教育を勉強したい」という熱意が伝わってきました。そんな皆さんが書いてくださるアンケートに励まされながら、5回の講座を実施できました。ありがとうございます。「来年度もこのような機会を」という声をたくさんいただいています。来年度もできるかどうかは現時点では分からないのですが、何らかの形で皆さんのお手伝いのできたらいいと思っています。

どうもありがとうございました。

